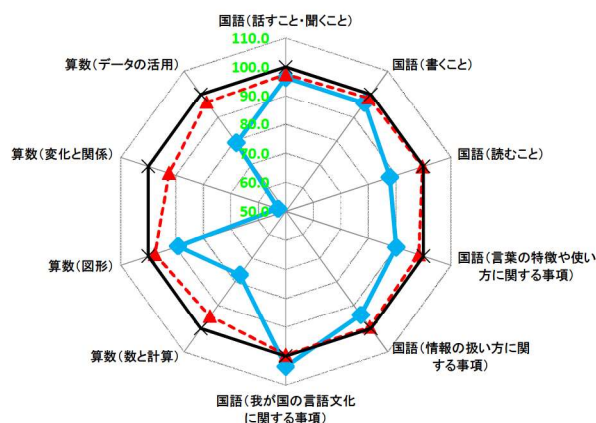


■夕張市内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：22人）（中学校数：1校、生徒数：22人）

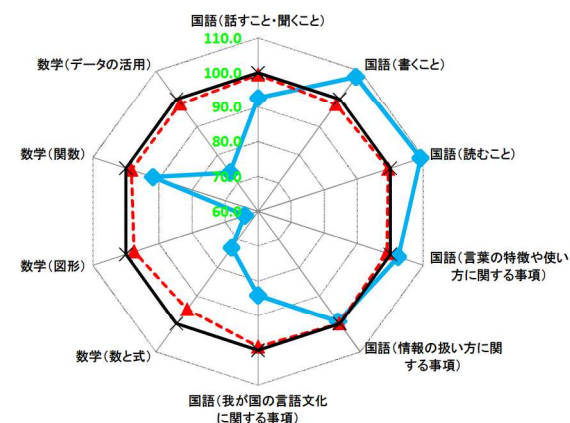
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



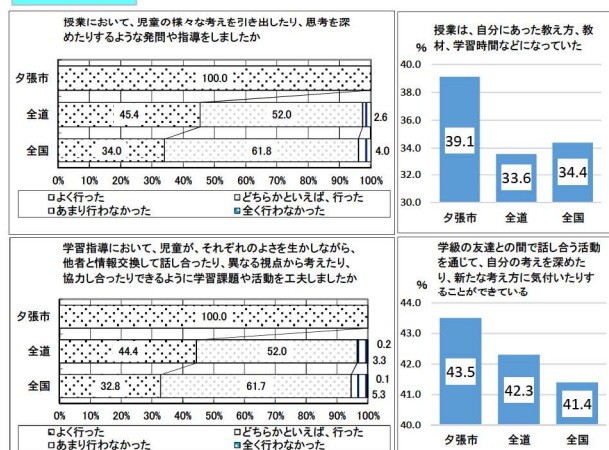
中学校



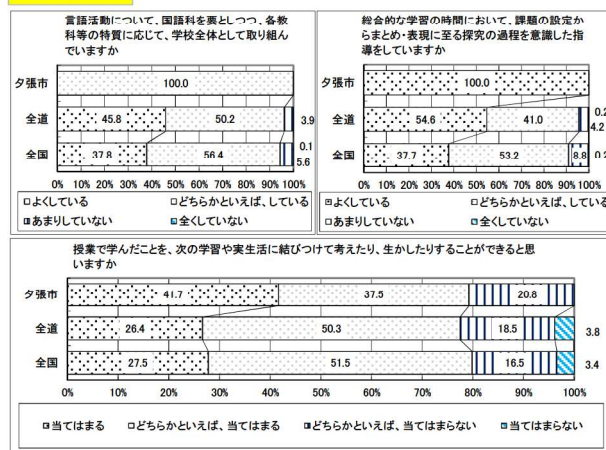
平均正答率	小学校	中学校
国語	63	58
算数・数学	50	41

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
言語活動について、国語科を要として、各教科等の特徴に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【夕張市の学力向上策】

- ◎ 「ゆうぱりっこ、学び育成プラン」に基づく取組の充実と検証・改善
- ◎ 夕張市小中一貫教育推進委員会学習指導部会による学力分析と改善方策の検討
- ◎ CSとの連携による家庭学習週間（ファミスタウィーク）の実施と学習習慣の改善
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を図るための教員の研修機会の充実

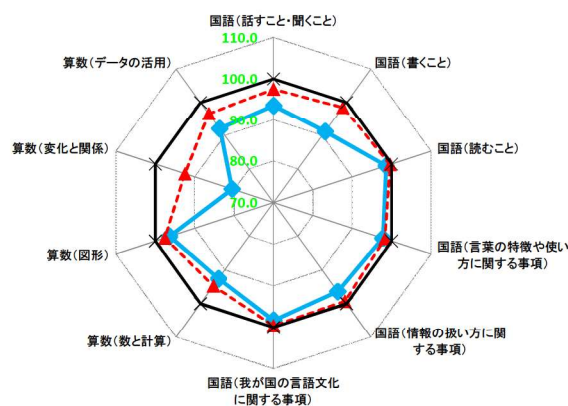
■岩見沢市内の状況及び学力向上策（小学校数:14校、児童数:494人）（中学校数:9校、生徒数:516人）

【教科全体の状況】

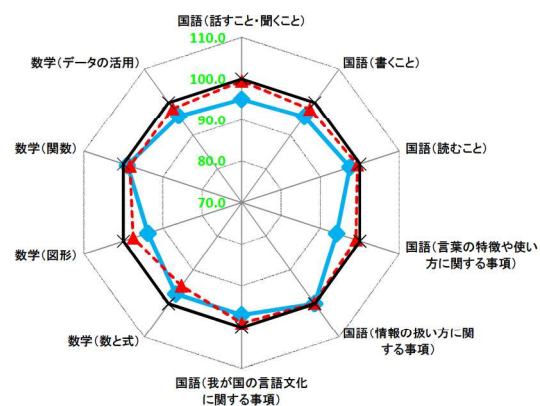
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	56
算数・数学	58	51

小学校

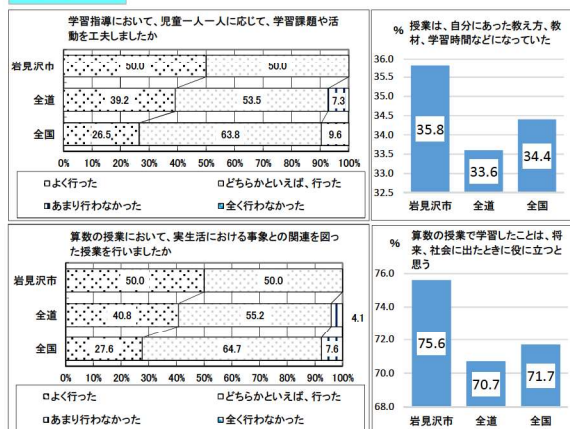


中学校

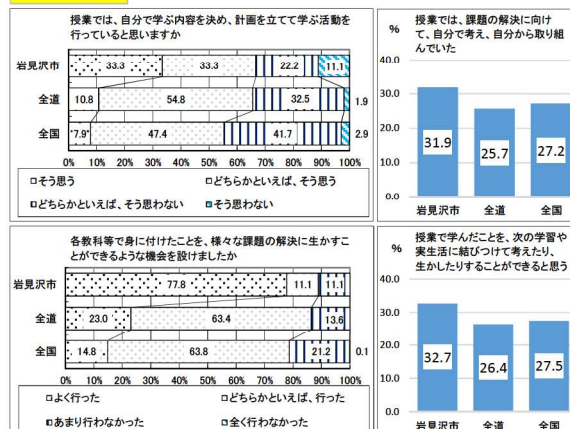


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行ったことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩見沢市の学力向上策】

- ◎ 身に付ける資質・能力を明確にし、子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開
- ◎ 「学習スキルの向上」と「学習ルールの徹底」による子どもたちの学びの形成、「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく学習集団づくりの強化
- ◎ 市立教育研究所の情報教育研究部会員を講師とした、1人1台端末の効果的な活用・促進を図る研修会の実施

【Webページ】



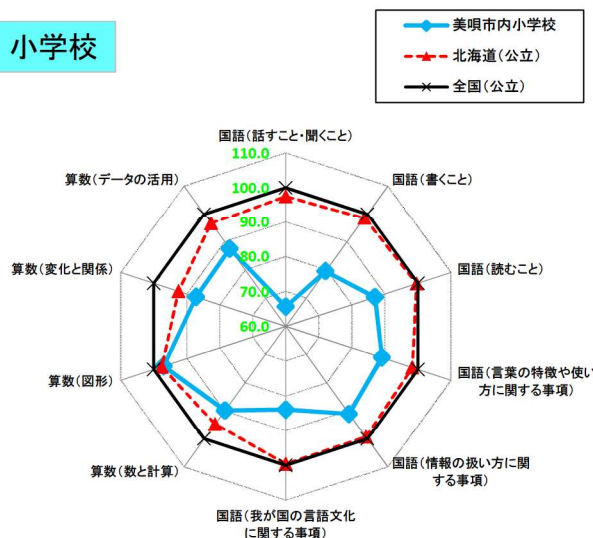
■美唄市内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：91人）（中学校数：2校、生徒数：108人）

【教科全体の状況】

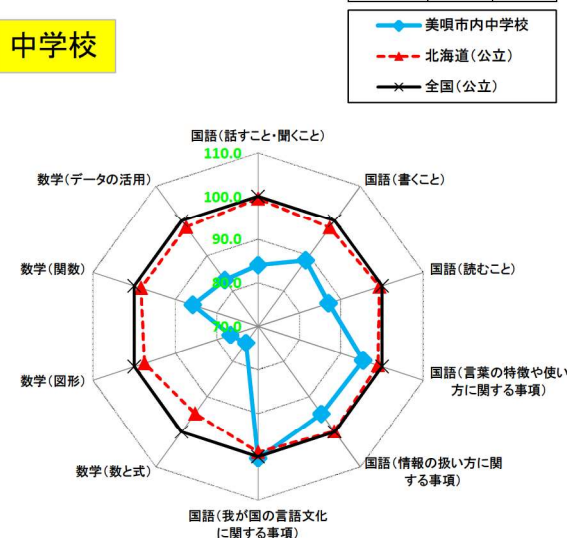
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	53
算数・数学	58	42

小学校

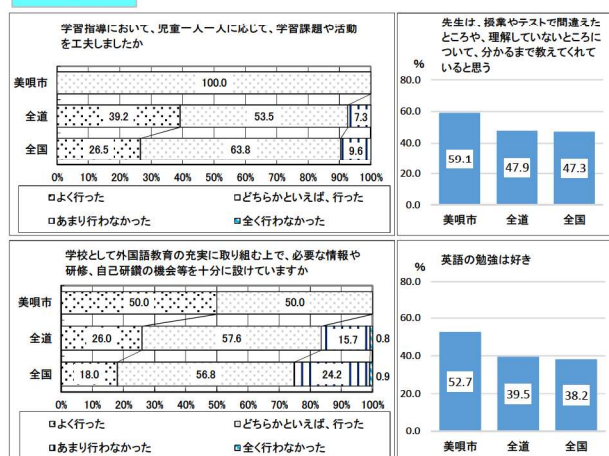


中学校

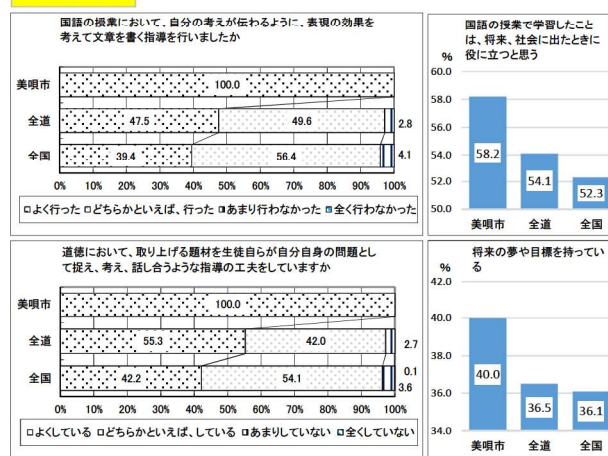


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けたことにより、授業改善が図られ、英語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【美唄市の学力向上策】

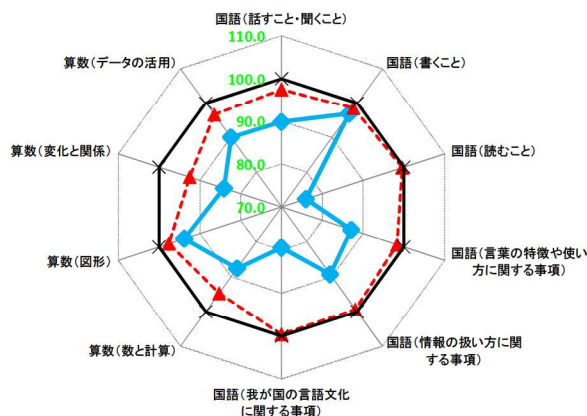
- ◎ 小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成と活用
- ◎ 各中学校区における義務教育9年間を見通した学習規律や授業スタイルを整えた学び方の徹底及び家庭学習強化週間の設定による家庭と連携した取組の充実
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施

■ 芦別市内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：49人）（中学校数：1校、生徒数：54人）

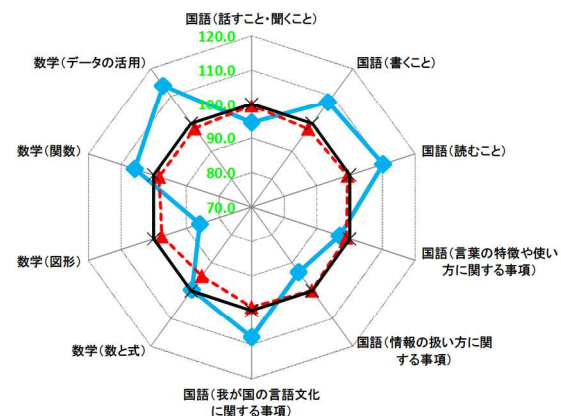
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



中学校

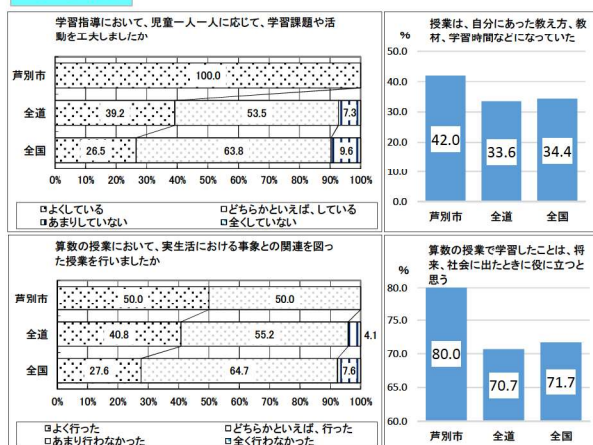


平均正答率	小学校	中学校
国語	58	59
算数・数学	58	54

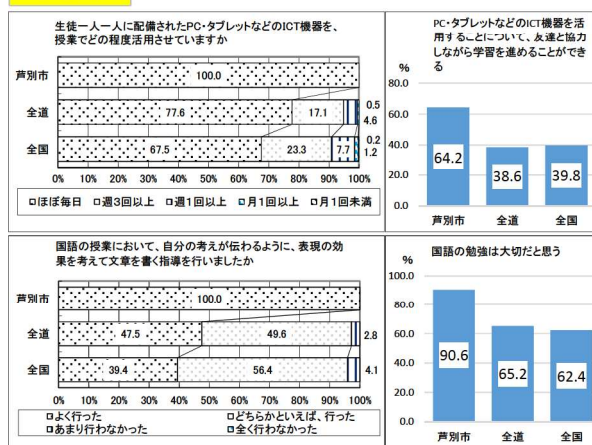
平均正答率	小学校	中学校
国語	58	59
算数・数学	58	54

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
ICT環境を最大限活用した個に応じた授業づくりの推進を行ったことにより、授業改善が図られ、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったとともに、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【芦別市の学力向上策】

- ◎ 道教委指定事業「学校力向上に関する総合実践事業」における包括的な学校改善の推進
- ◎ 小中共通した「芦別スタイル」による授業改善の推進
- ◎ ICT環境を最大限活用した個に応じた授業づくりの推進

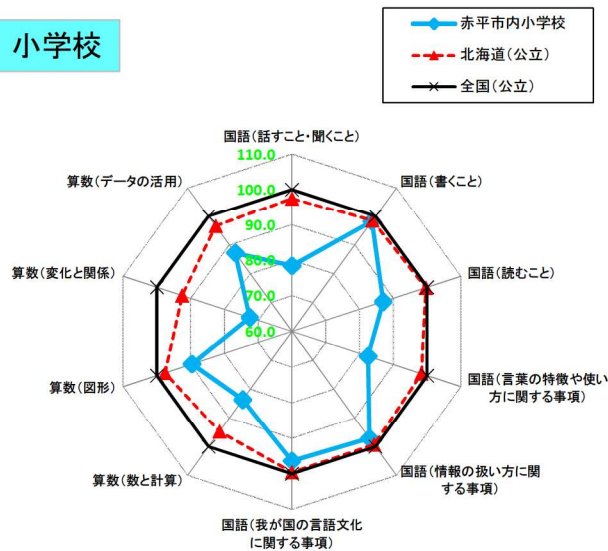
■ 赤平市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:32人）（中学校数:1校、生徒数:40人）

【教科全体の状況】

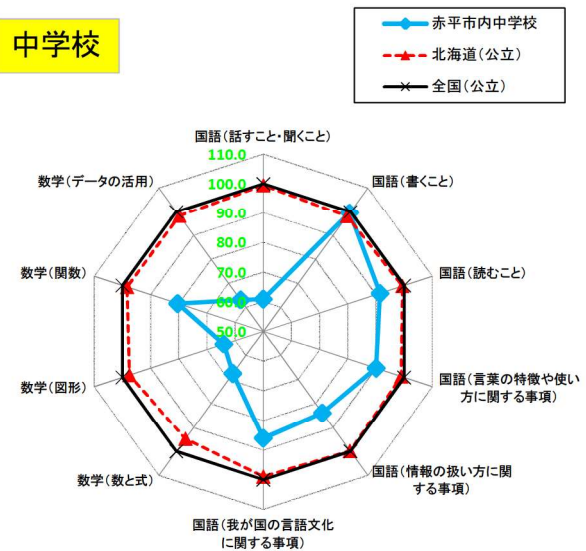
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	49
算数・数学	53	37

小学校

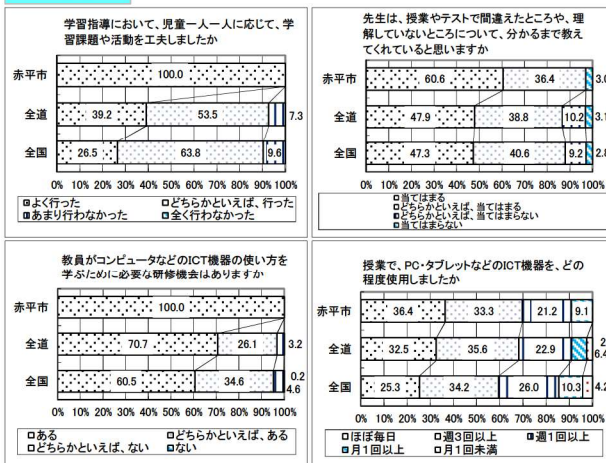


中学校

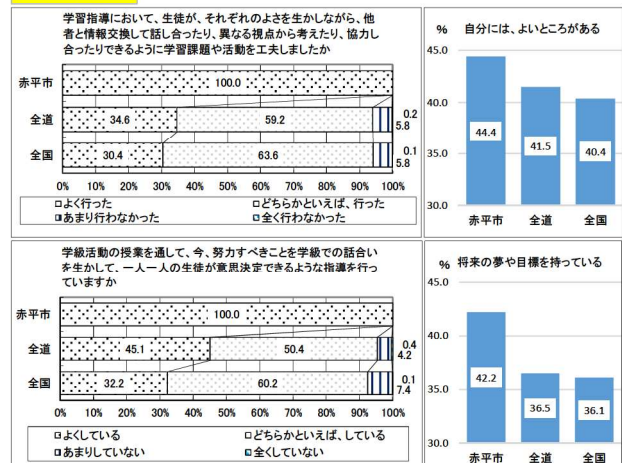


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を位置付けたことにより、授業改善が図られ、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、自分にはよいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤平市の学力向上策】

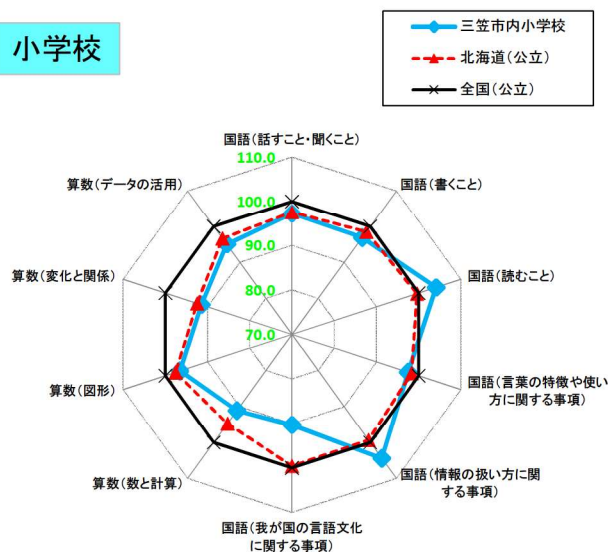
- ◎ ICT機器を効果的に活用した授業スタイルを確立するための小中連携の推進
- ◎ 望ましい家庭学習の例示と家庭学習時間の実態把握による家庭学習の取組の充実
- ◎ AI学習ドリルの導入や英語検定の受検料の補助による学習意欲の喚起と公設塾の継続

■三笠市内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:43人）（中学校数:2校、生徒数:37人）

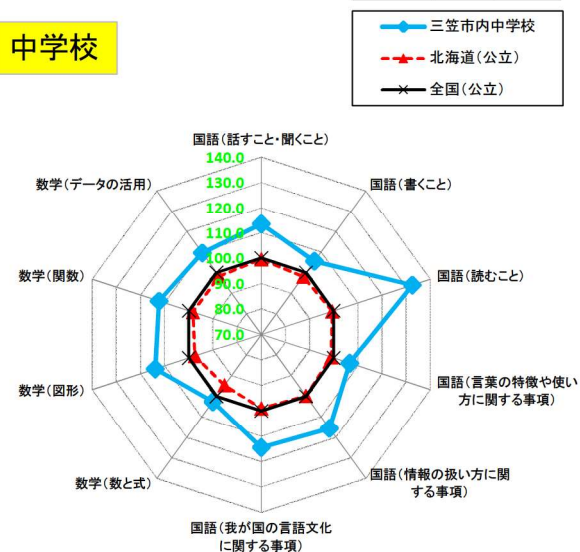
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

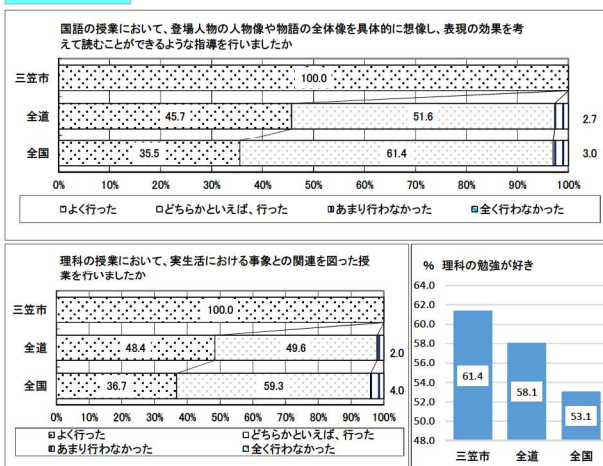


中学校

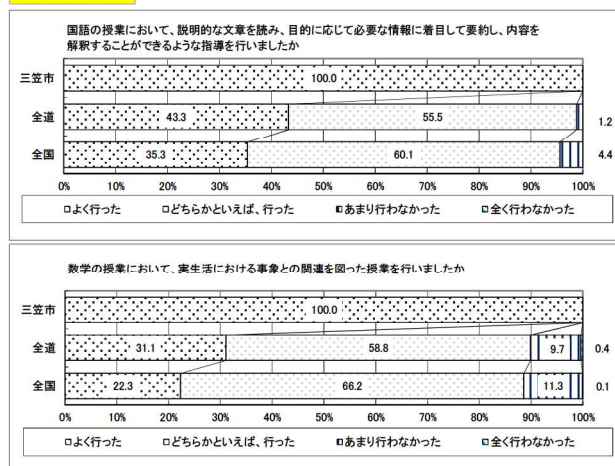


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考
えて読むことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、
国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容への理解が深まり、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【三笠市の学力向上策】

- ◎ 学力向上を目指し、退職教員や私塾講師を活用した「学力向上未来塾推進事業」の実施
- ◎ 児童生徒の思考力を高める授業づくり「三笠市授業スタイル」に基づく中学校区で共通した目指す子ども像の設定
- ◎ 小中合同研修会における1人1台端末を活用した授業づくりに係る研修の実施

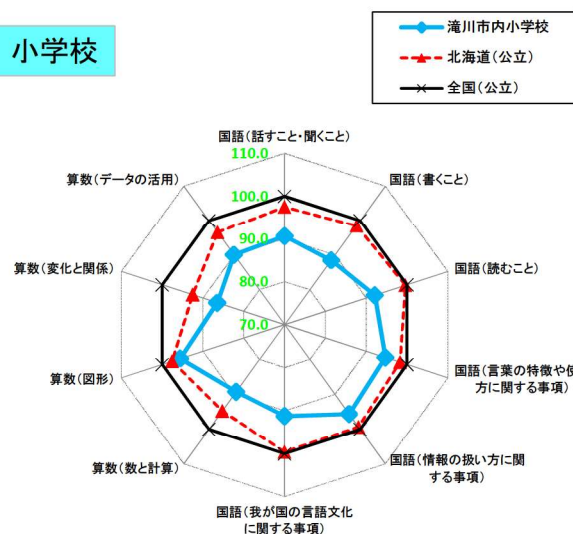
■ 滝川市内の状況及び学力向上策 （小学校数:6校、児童数:219人）（中学校数:3校、生徒数:267人）

【教科全体の状況】

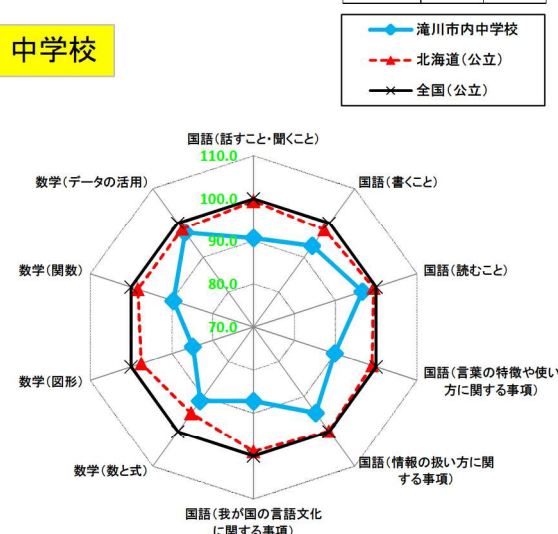
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	54
算数・数学	58	48

小学校

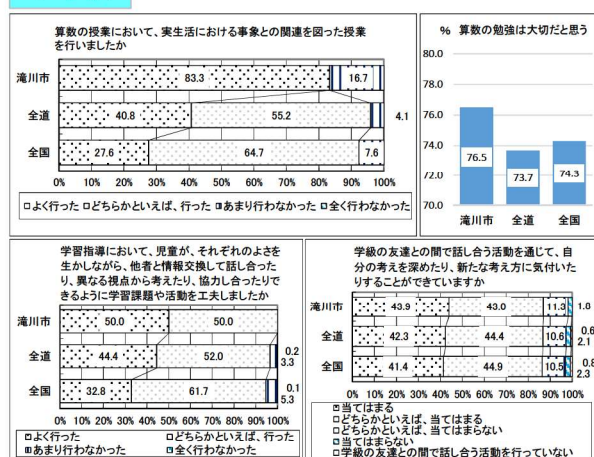


中学校

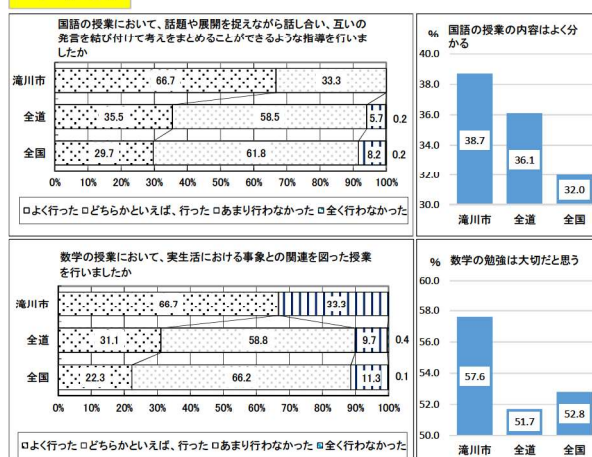


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる。と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【滝川市の学力向上策】

- ◎ 「学びサポーター」の戦略的配置による少人数指導体制の構築
- ◎ 家庭学習の手引による保護者と連携した予習や復習の習慣化に向けた取組の推進
- ◎ 道教委指定事業「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」を活用した学校間の取組の発信による積極的な授業改善の推進

【Webページ】

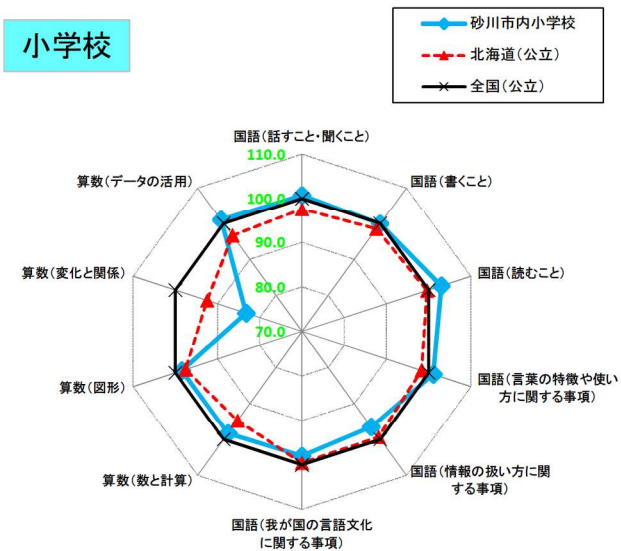


■砂川市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:93人）（中学校数:1校、生徒数:95人）

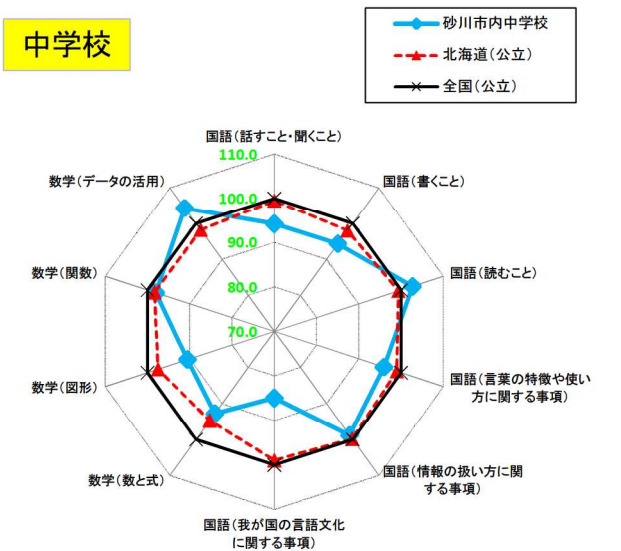
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校



中学校

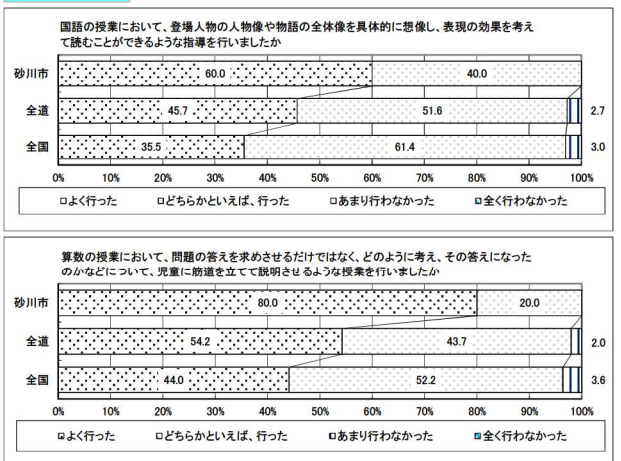


平均正答率	小学校	中学校
国語	60	56
算数・数学	61	51

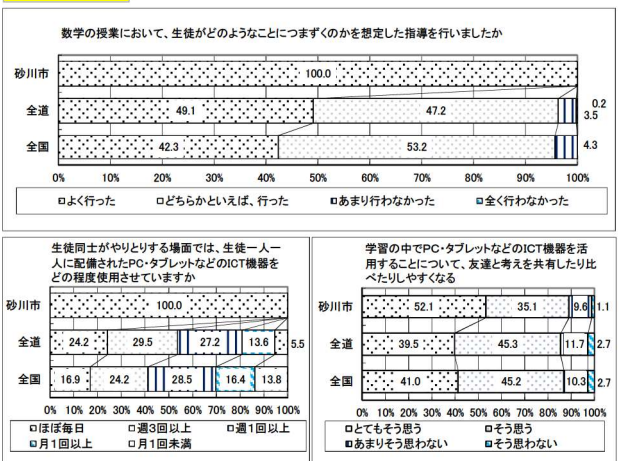
平均正答率	砂川市内中学校	北海道(公立)	全国(公立)
国語	110.0	90.0	80.0
数学	100.0	90.0	80.0

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え読むことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくかを想定した指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒同士がやりとりする場面において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなることと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【砂川市の学力向上策】

- ◎ 小中連携して取り組む授業改善や「ほめること」を大切に自己肯定感を高める指導の推進
- ◎ 小中連携して設定した家庭学習強化週間による、基礎・基本の確実な定着を図る家庭学習の充実
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

【Webページ】



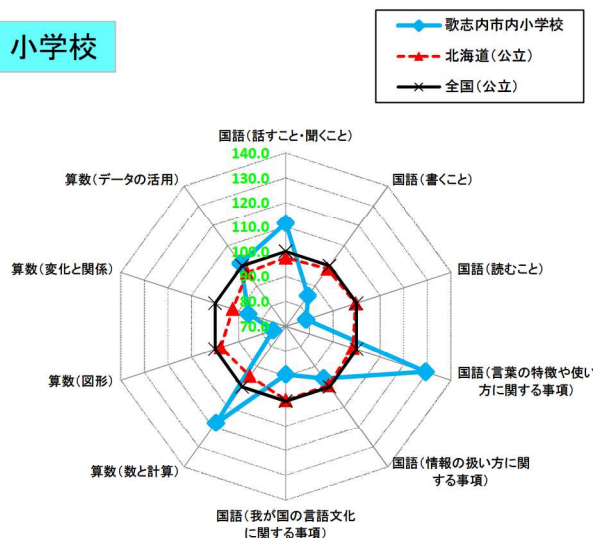
■歌志内市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:6人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

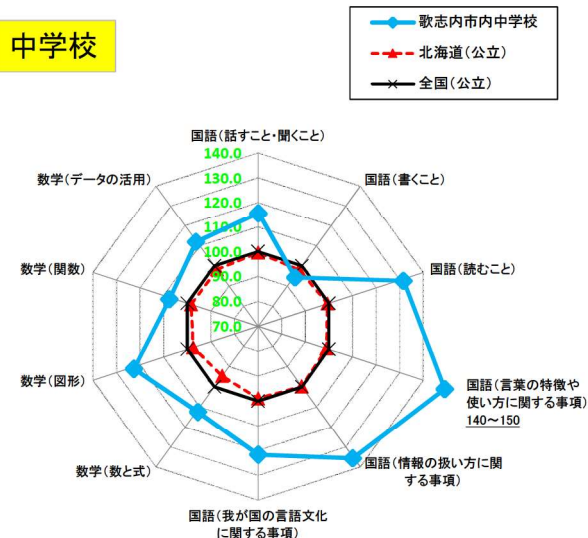
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	71
算数・数学	63	58

小学校

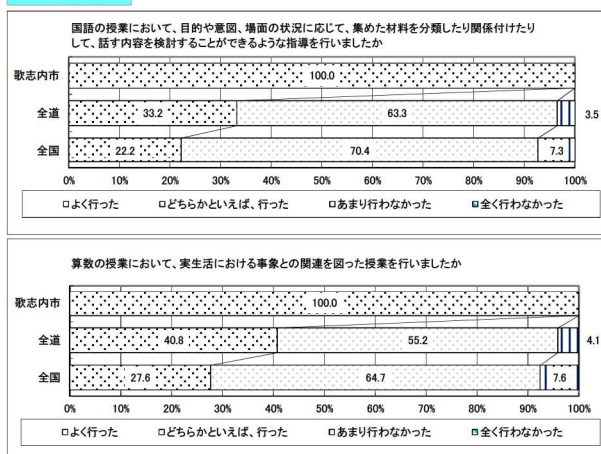


中学校

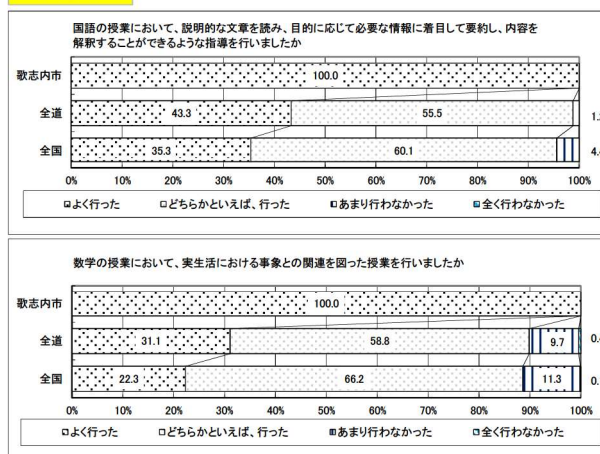


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「数と計算」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【歌志内市の学力向上策】

- ◎ 義務教育学校としての9年間の学びを充実させるための教育課程の編成と指導計画の作成
- ◎ 教科担任制による基礎学力向上の取組
- ◎ ICT支援員による1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

【Webページ】



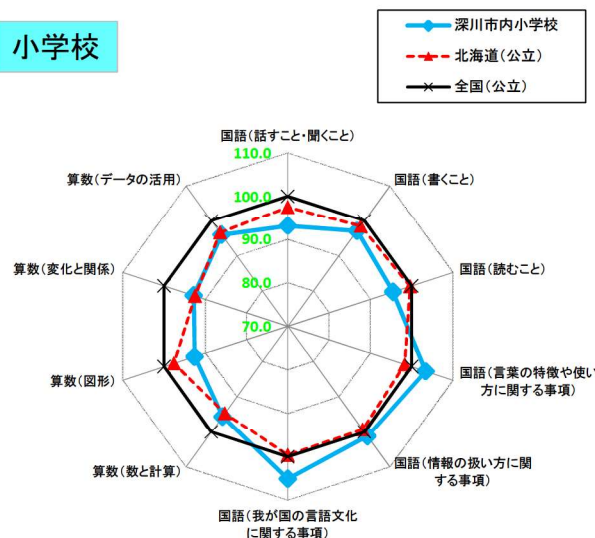
（R6.11掲載予定）

■ 深川市内の状況及び学力向上策 （小学校数:6校、児童数:116人）（中学校数:2校、生徒数:100人）

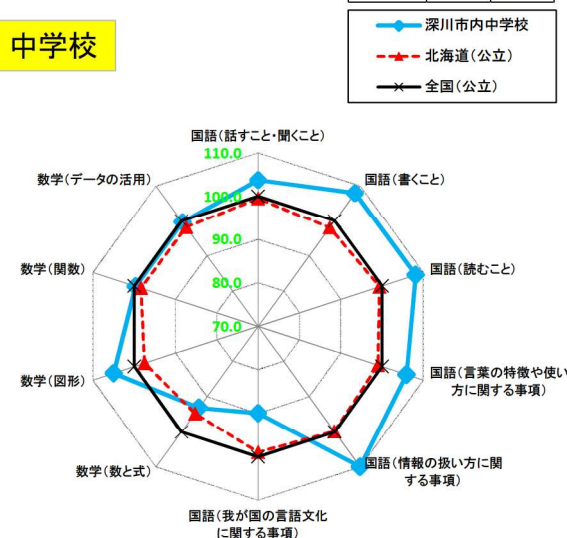
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



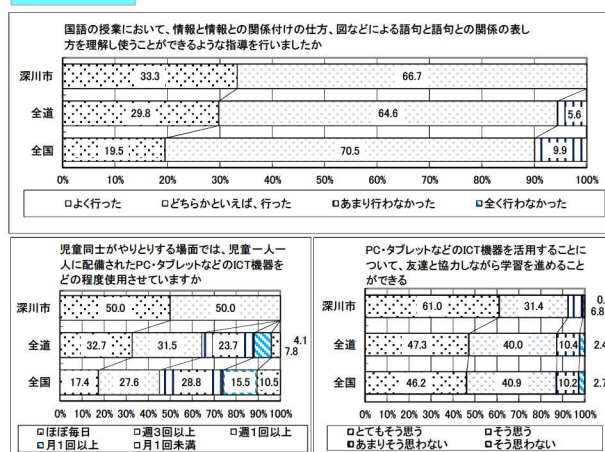
中学校



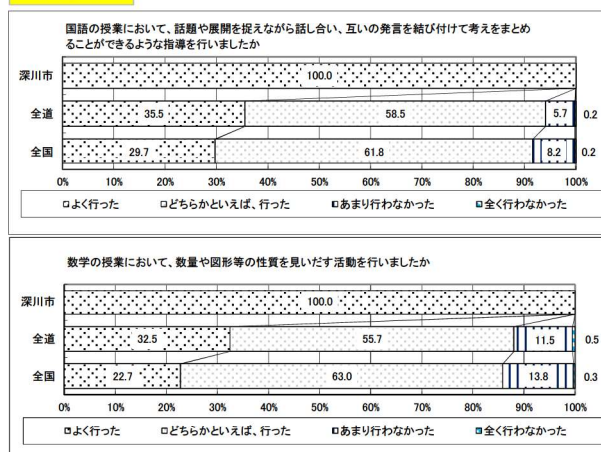
平均正答率	小学校	中学校
国語	67	61
算数・数学	60	52

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 児童同士がやりとりする場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でよく活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【深川市の学力向上策】

- ◎ 小・中学生を対象にした放課後教室や長期休業中の学習支援を行う「学習サポートプログラム」の実施
- ◎ 学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修の実施
- ◎ ICTを効果的に活用した授業改善の推進

【Webページ】



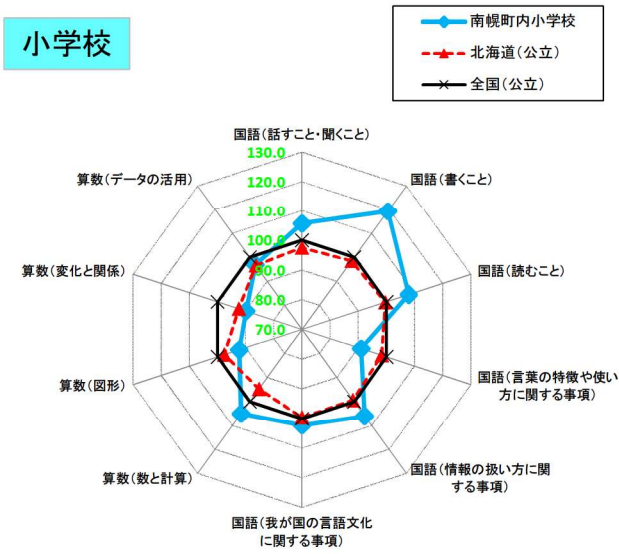
■南幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:49人）

【教科全体の状況】

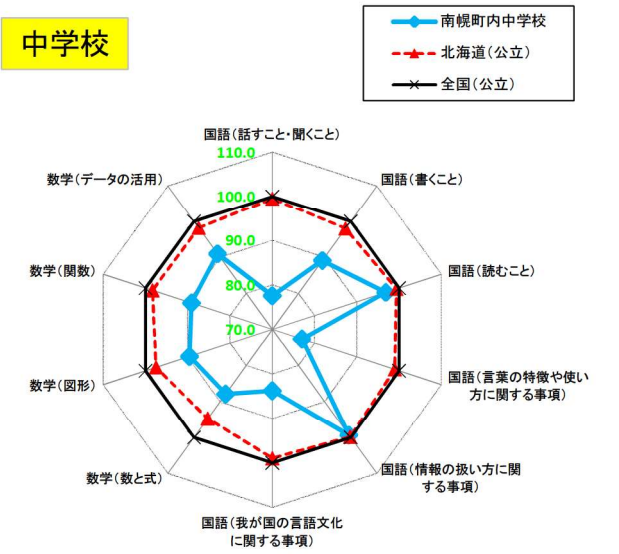
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	50
算数・数学	62	47

小学校

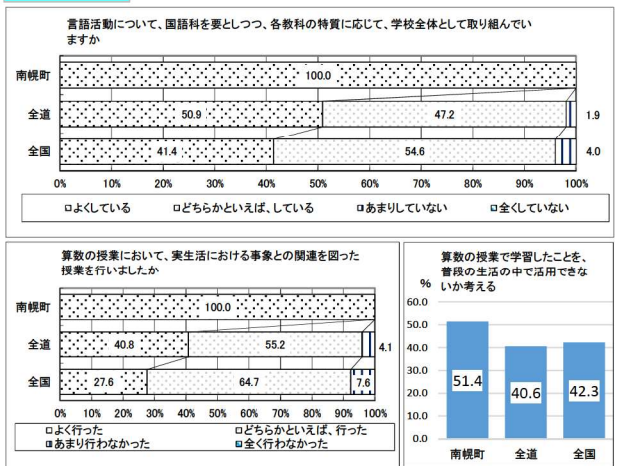


中学校

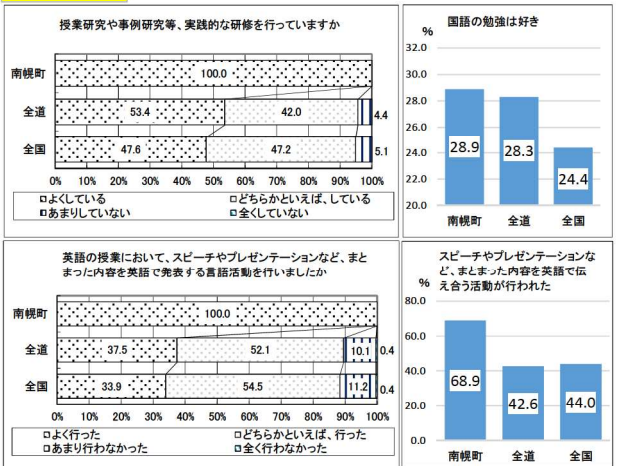


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったことにより、授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で伝える活動が行われたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ 児童生徒一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習支援員の配置
- ◎ きめ細かな指導に向けた少人数学級開設のための町独自による教員加配

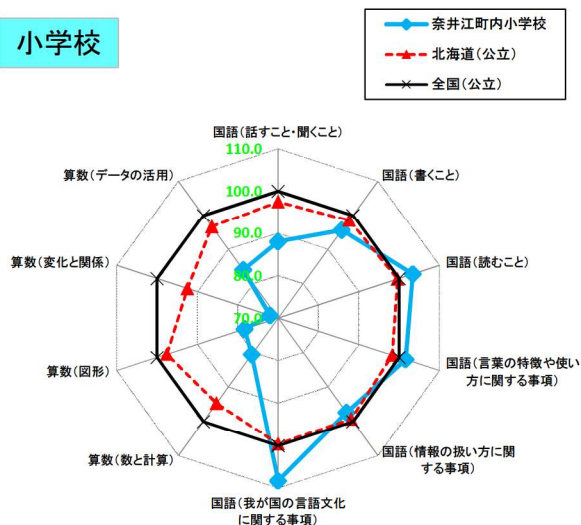
■奈井江町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：26人）（中学校数：1校、生徒数：23人）

【教科全体の状況】

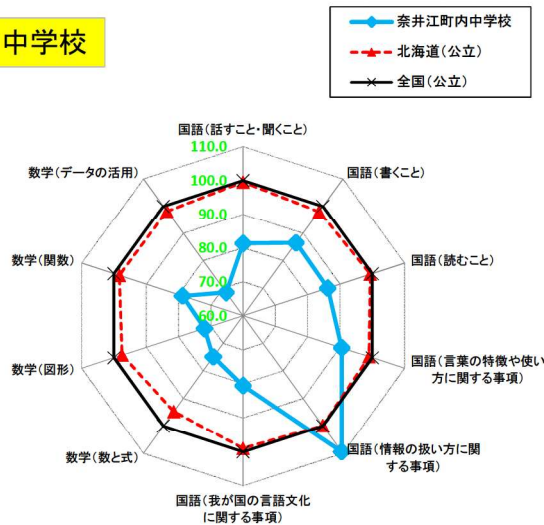
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	52
算数・数学	50	39

小学校

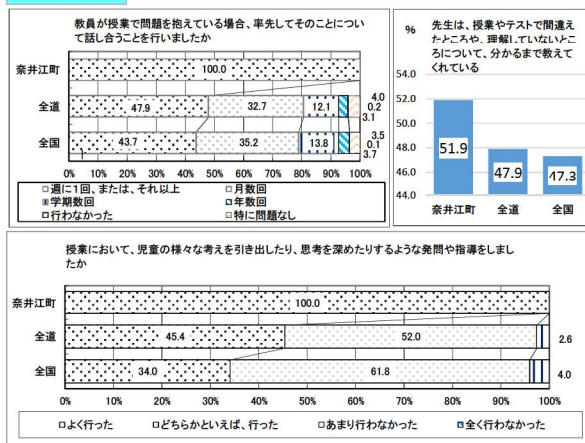


中学校

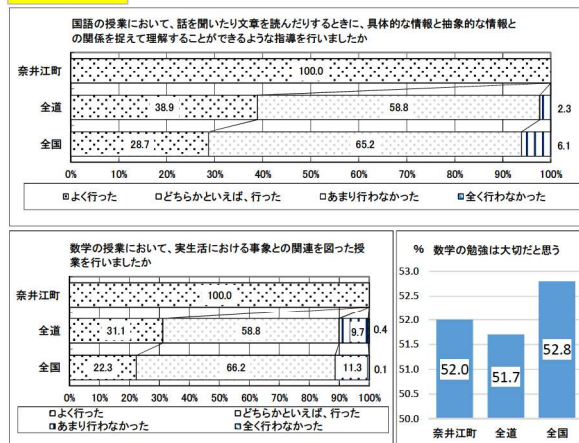


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったことにより、授業改善が図られ、先生は、授業やテスト等間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係をついて理解することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

【奈井江町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校で統一した学習規律の徹底・習熟度に応じた指導の充実（机間指導、T・T等との情報共有）
- ◎ 公設塾との連携による家庭学習習慣の確立及び自主学習サポート、学ぶことの楽しさが感じられる特別活動の実施
- ◎ タブレット端末を活用した授業改善・AI型教材活用による「個別最適な学び」の推進
- ◎ 町図書館司書と学校図書担当教諭による読書活動の支援

【Webページ】



（R6.12掲載予定）

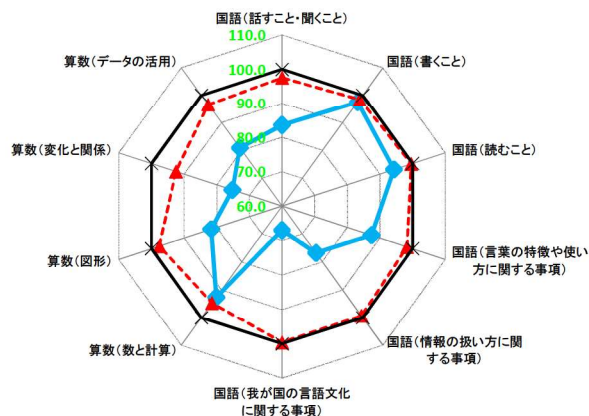
■上砂川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

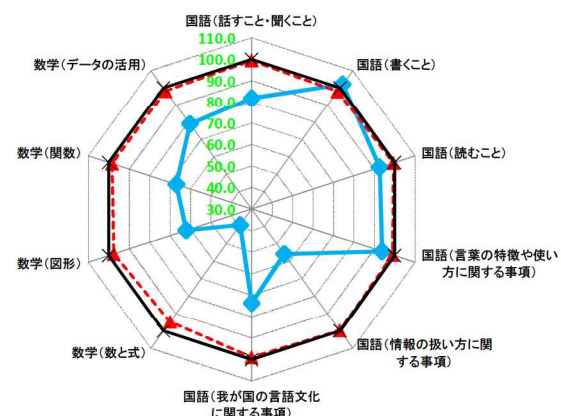
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	50
算数・数学	54	32

小学校

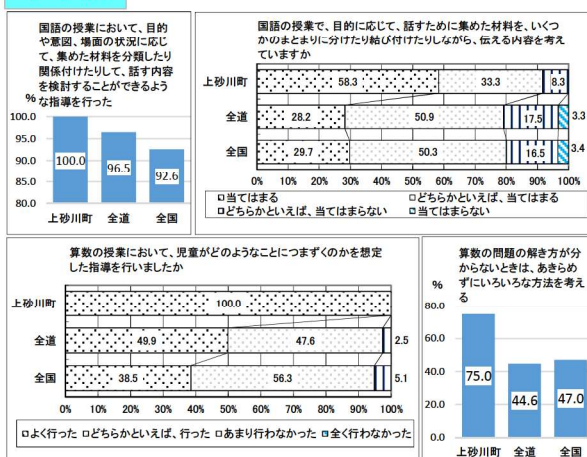


中学校

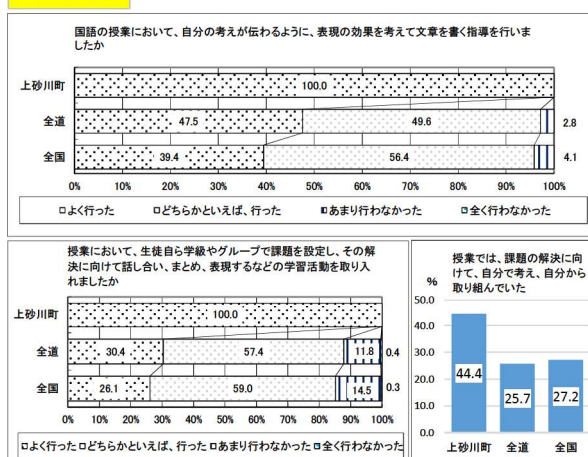


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考える。算数の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考える。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上砂川町の学力向上策】

- ◎ タブレット端末で活用できる教材ソフトの導入による分かりやすい授業づくりの促進
- ◎ 小学校の外国語教育の充実と教科担任制の一部導入
- ◎ 公設塾の継続と実施方法の見直し
- ◎ 中学生への各種検定料の助成

【Webページ】



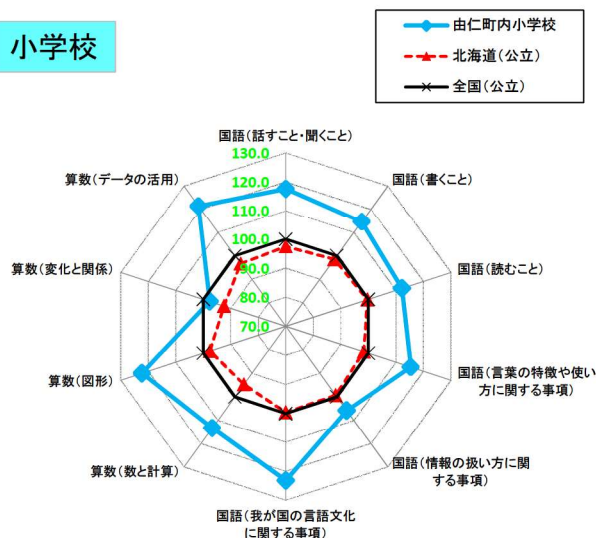
■由仁町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:21人）

【教科全体の状況】

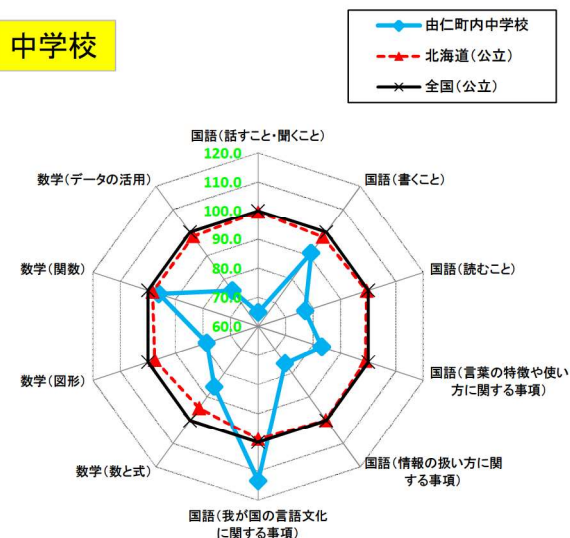
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	78	47
算数・数学	73	45

小学校

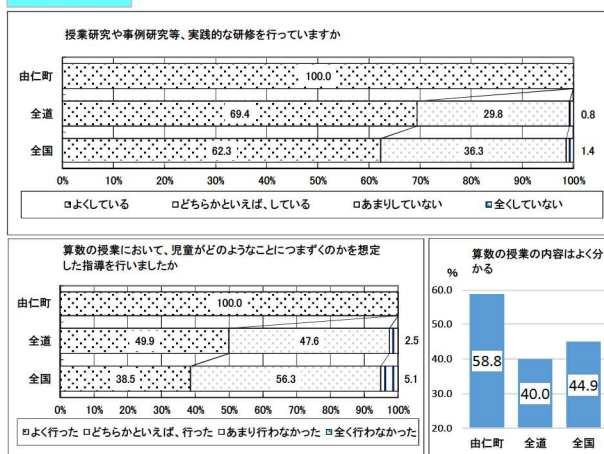


中学校

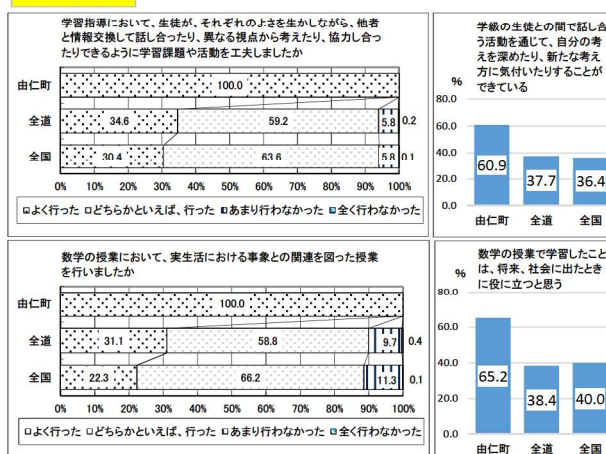


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくかを想定した指導を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話したり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【由仁町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進に向けた9年間の統一的教育課程の編成
- ◎ 民間学習塾による放課後及び長期休業期間中における生徒への個別指導の実施
- ◎ 児童生徒1人1台端末を活用した持ち帰り学習（デジタルドリル等）の実施

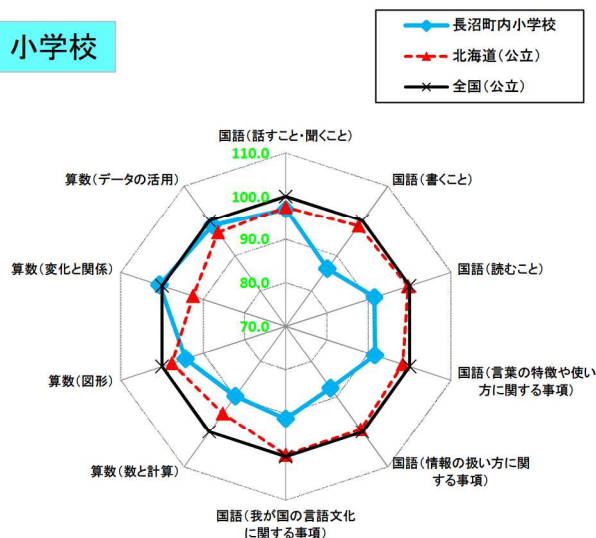
■長沼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:50人）（中学校数:1校、生徒数:80人）

【教科全体の状況】

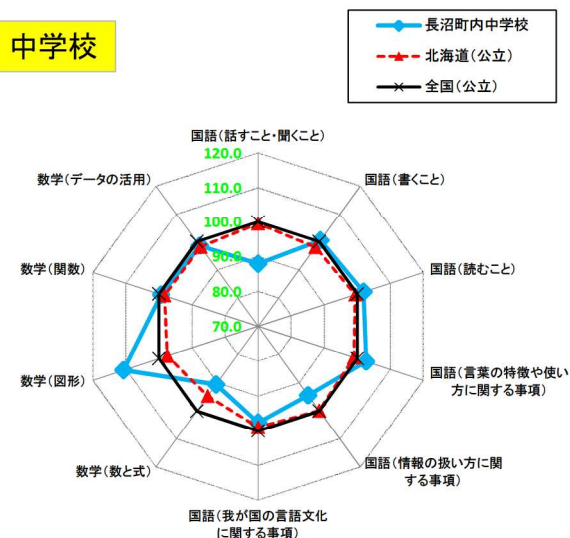
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	57
算数・数学	60	52

小学校

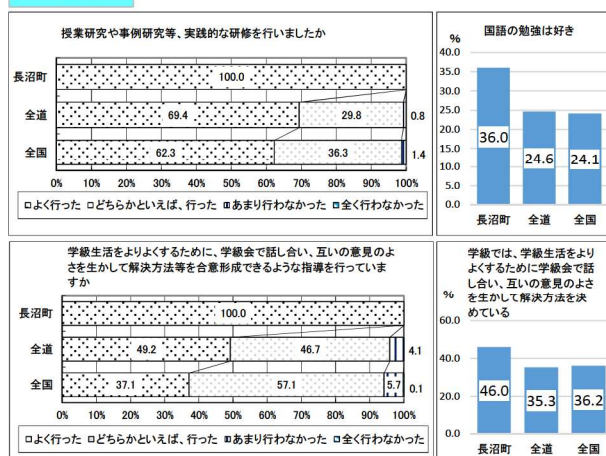


中学校

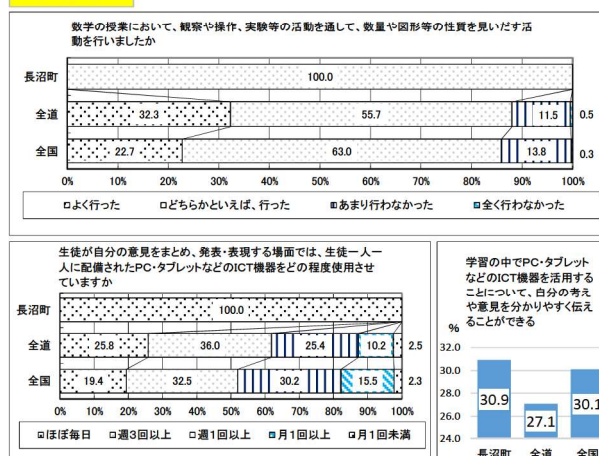


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決定していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒が自分の意見をまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育推進会議における9年間の見通しをもった教育活動全体のカリキュラムの充実に向けた検討など、小・中学校が協働した学習指導の改善・充実
- ◎ 1人1台端末とクラウド環境を効果的に活用した授業改善の推進（端末の持ち帰りによる学びの機会の拡充を含む）
- ◎ 教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
- ◎ 学習支援員やALTの配置及び検定料助成などによる子どもたちの学びを支える教育の推進

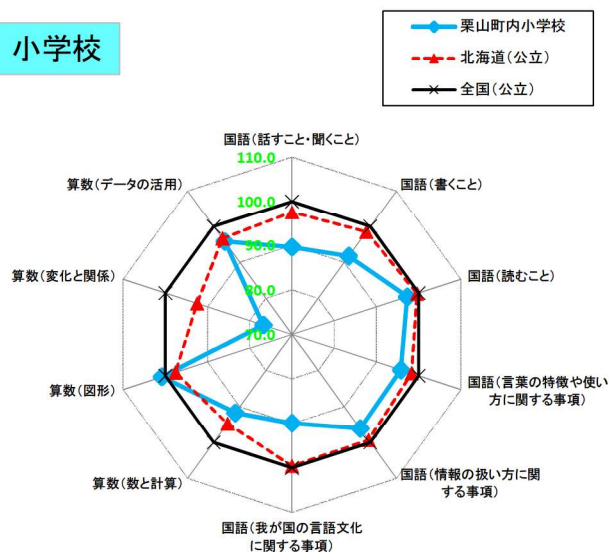
■栗山町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:79人）（中学校数:1校、生徒数:73人）

【教科全体の状況】

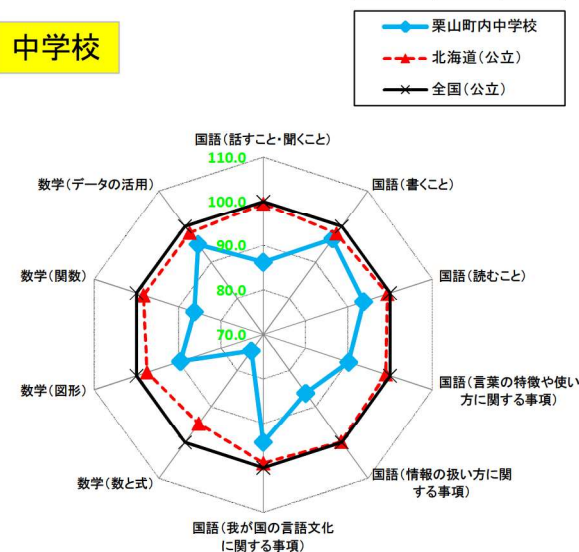
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	53
算数・数学	59	45

小学校

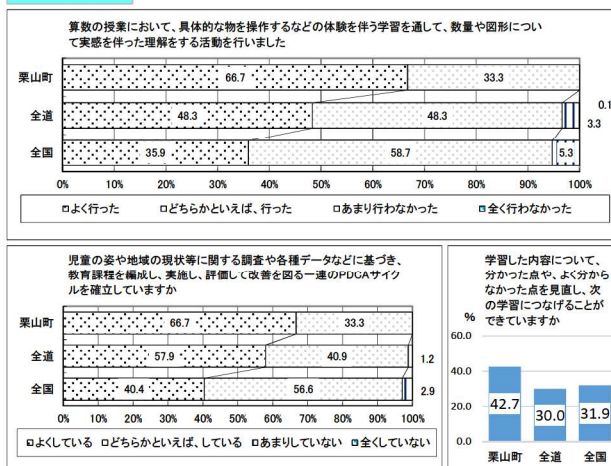


中学校

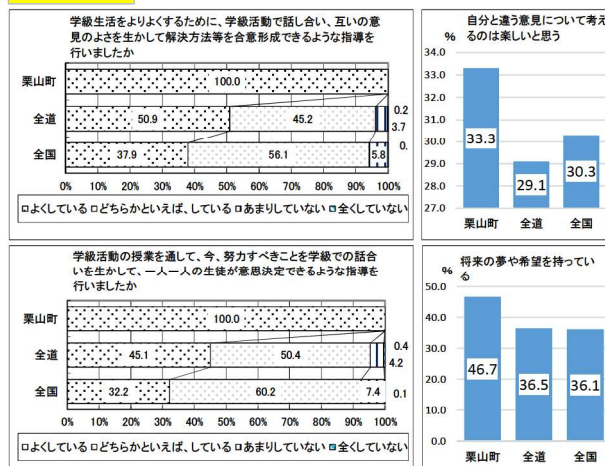


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していることにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【栗山町の学力向上策】

- ◎ 授業力の向上を目的とした、学校や教育振興会で教職員が学び合う環境の整備
- ◎ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による教育環境の整備
- ◎ ICT活用に係る校内外研修の充実

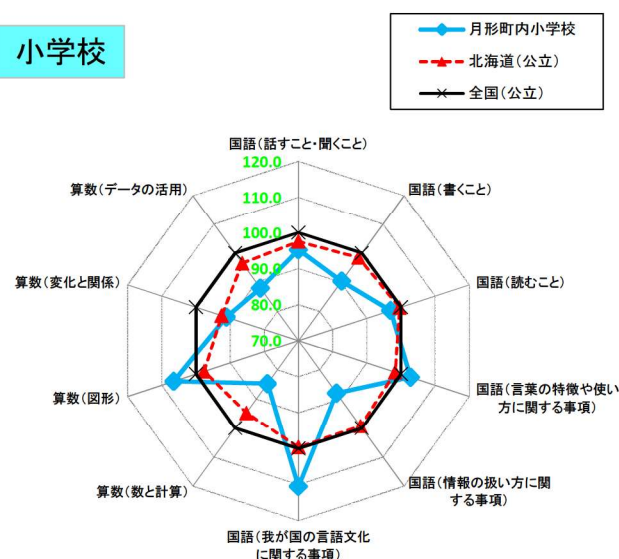
■月形町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

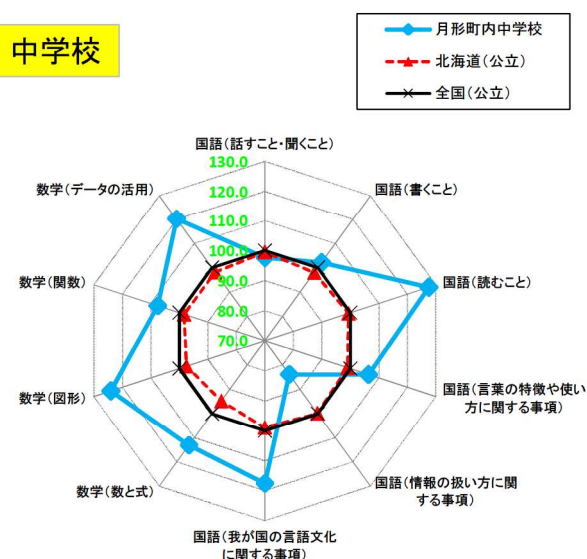
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	62
算数・数学	58	60

小学校

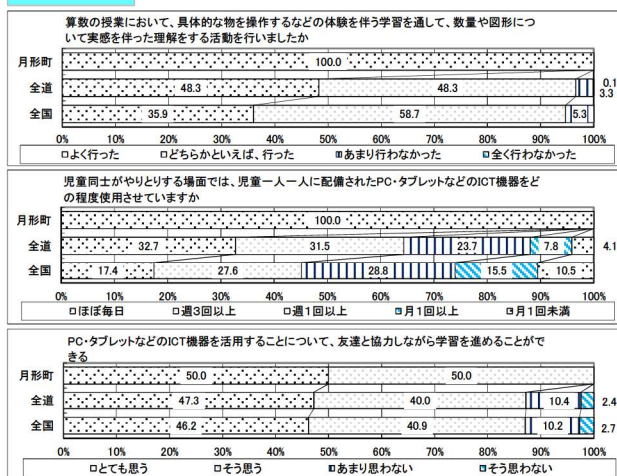


中学校

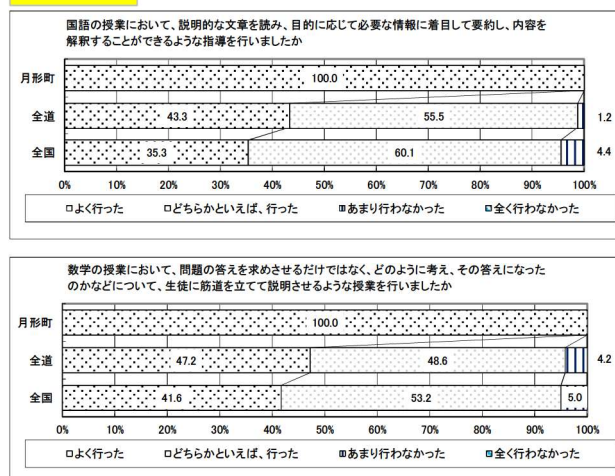


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、児童一人一人が具体物を操作するなどの実感を持った活動を積極的に行ったことにより、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業を展開するにあたり、児童同士がやりとりする場面において、配備された一人一台端末などのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【月形町の学力向上策】

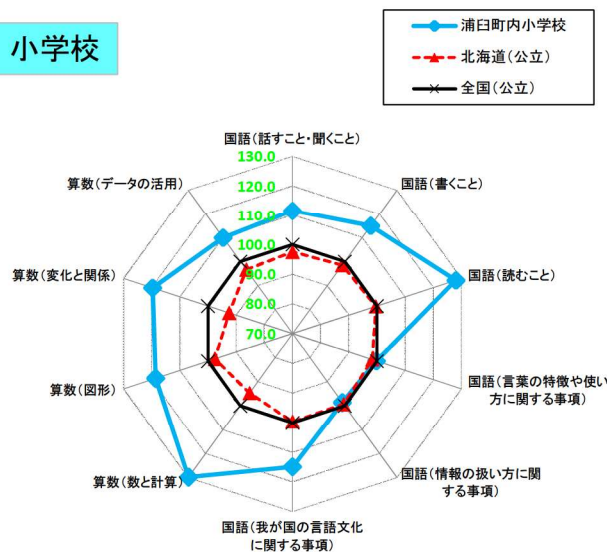
- ◎ 習熟の程度に応じた指導や主体的・協働的な学習を取り入れた指導の推進
- ◎ 小・中学校に時間講師を配置し、主体的な学びの実現を図る授業改善の推進

■浦臼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:7人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

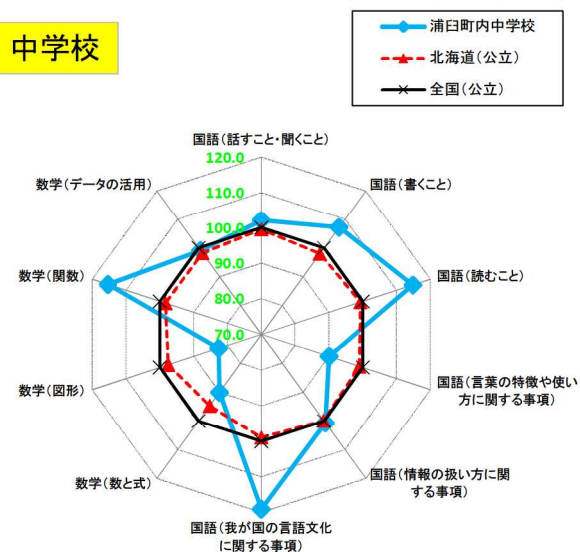
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



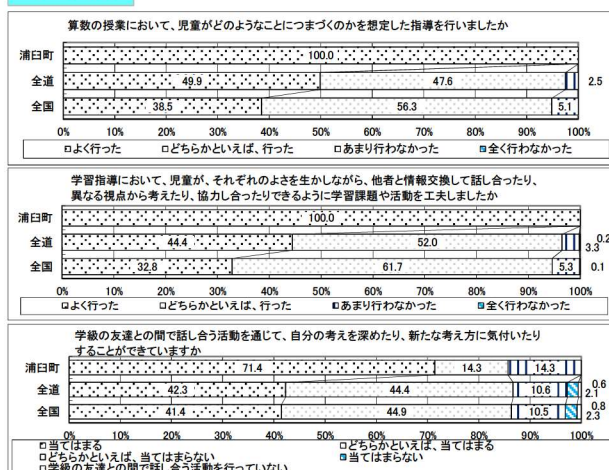
中学校



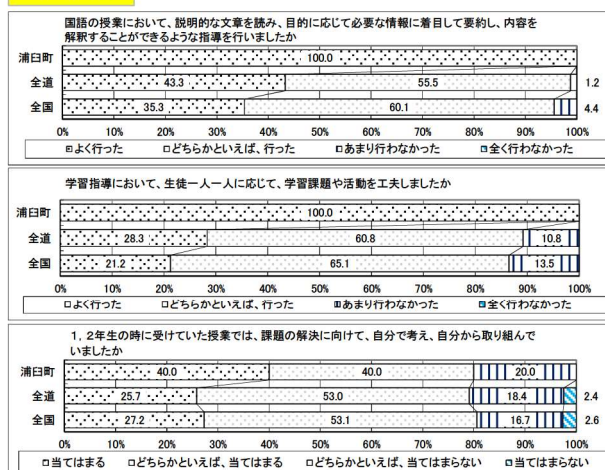
平均正答率	小学校	中学校
国語	76	61
算数・数学	75	52

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、児童がどのようなことにつまづくのかを想定した授業を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦臼町の学力向上策】

- ◎ 小中連携による統一した授業スタイル、学習規律、指導方法の確立
- ◎ コミュニティ・スクール導入による家庭と地域、学校が連携した学校づくりの促進
- ◎ ICT機器の効果的な活用による授業改善の促進

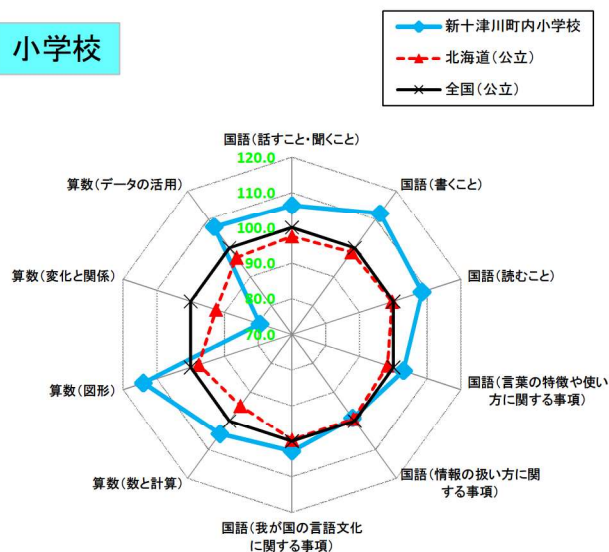
■新十津川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:43人）（中学校数:1校、生徒数:48人）

【教科全体の状況】

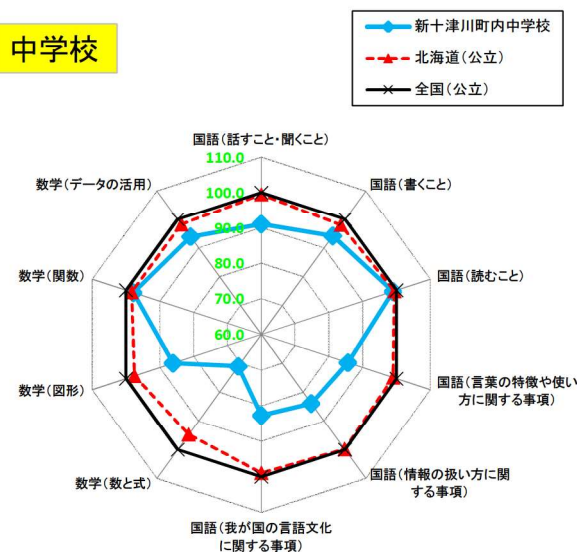
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	53
算数・数学	66	46

小学校

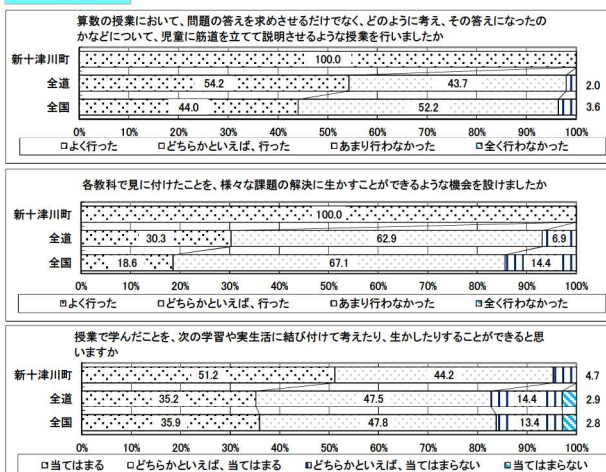


中学校

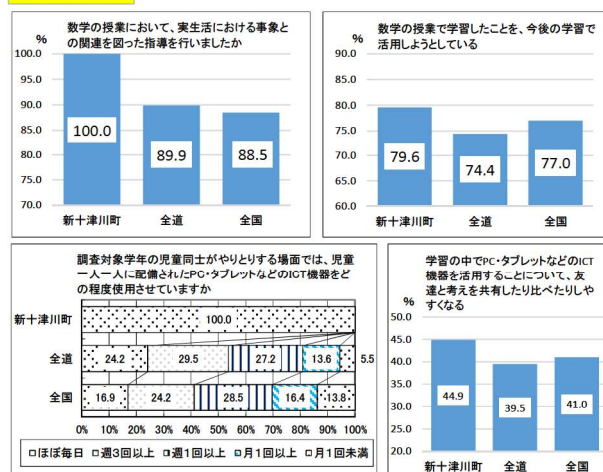


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った指導を行ったことにより、数学の学習で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配置されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

- ◎ 「学習支援サポーター」や「学力向上推進講師」を活用した「チーム・ティーチング指導」の実施
- ◎ ALTを活用した授業改善や中学校英語教師の乗り入れ指導の実施
- ◎ 放課後学習サポートの実施

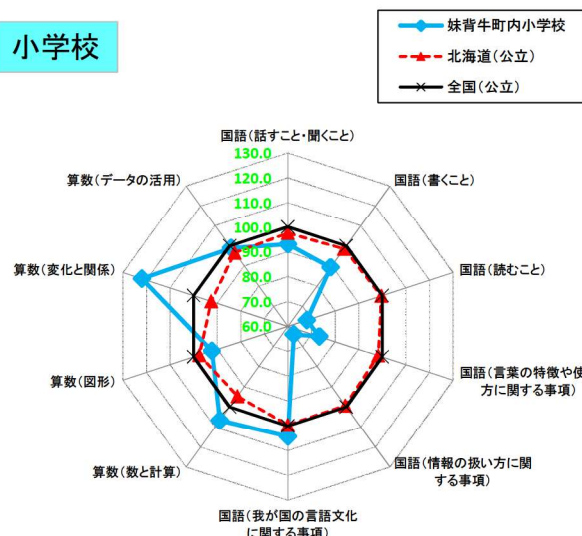
■妹背牛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:9人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

【教科全体の状況】

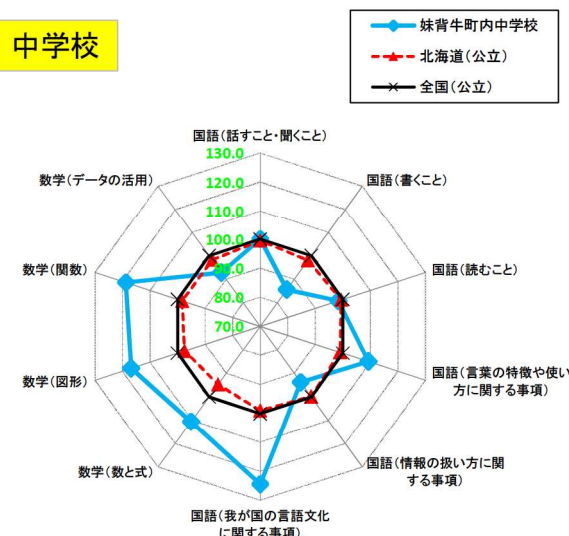
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	54	58
算数・数学	66	57

小学校

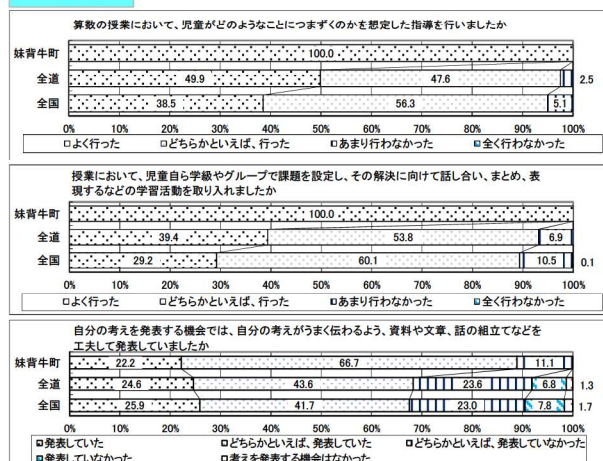


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「数と計算」「変化と関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「数と式」「図形」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動をよく工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着に向けたティーム・ティーチングや習熟度別学習での児童生徒への指導の充実
- ◎ 国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりの推進

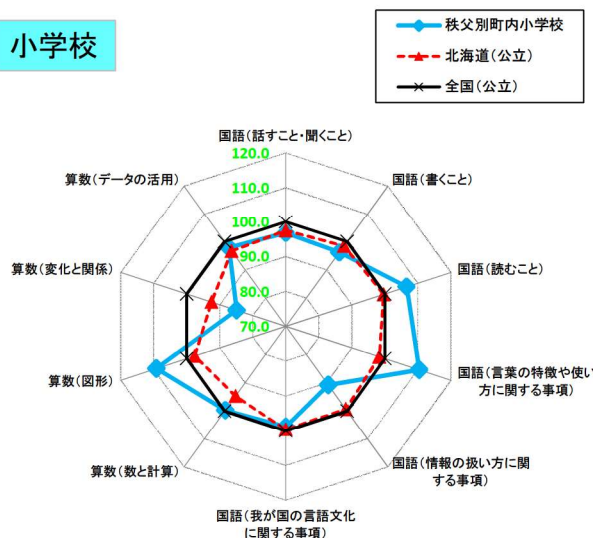
■秩父別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:1校、生徒数:7人）

【教科全体の状況】

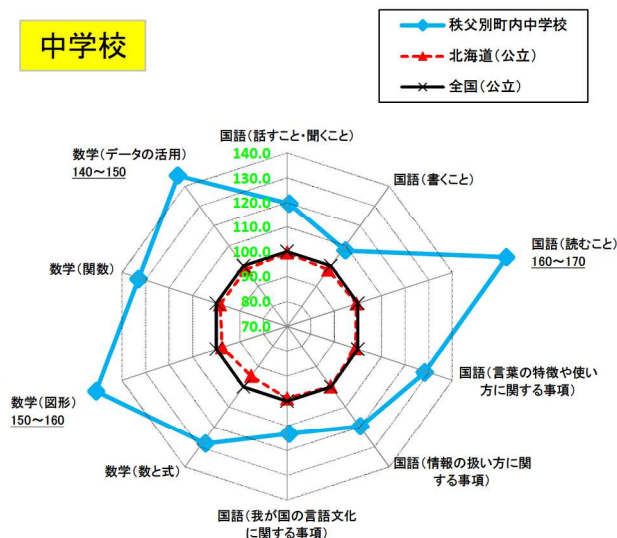
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	75
算数・数学	63	73

小学校



中学校

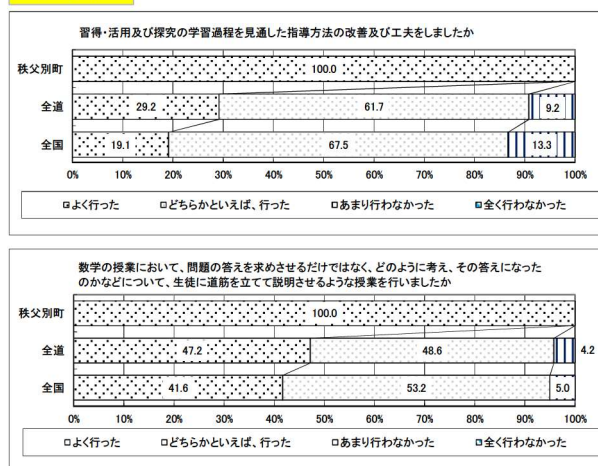


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し合うことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学習指導において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【秩父別町の学力向上策】

- ◎ 長期休業を活用した「望ましい学習及び生活習慣」の定着と郷土愛を育む事業の実施
- ◎ 中学校定期テスト前の「家庭学習強調週間」による家庭学習の促進
- ◎ 無線LANの整備によるタブレット型PCの活用促進

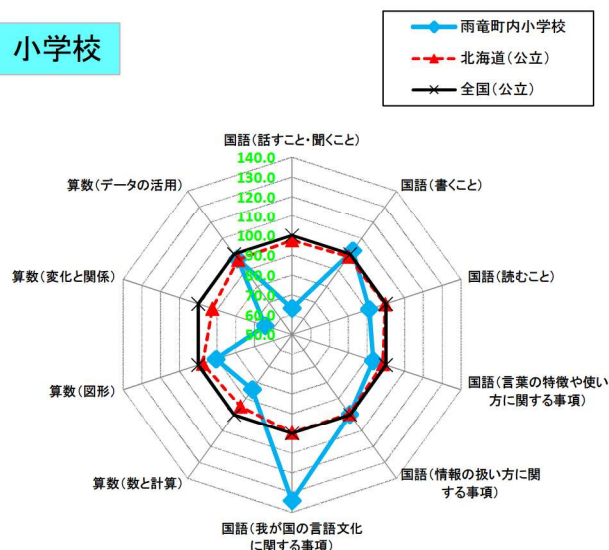
■雨竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

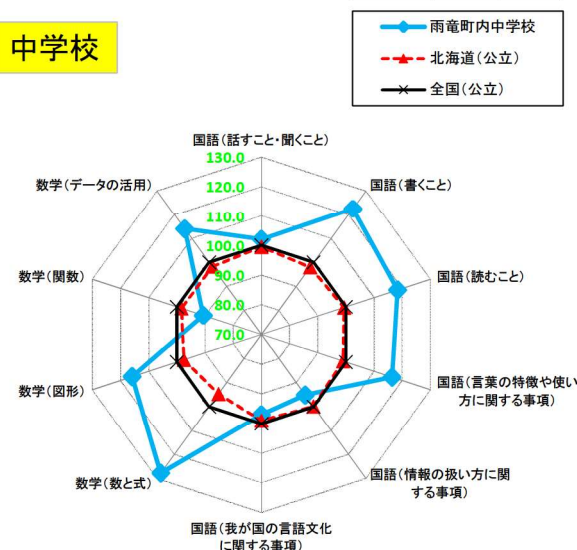
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	64
算数・数学	55	59

小学校

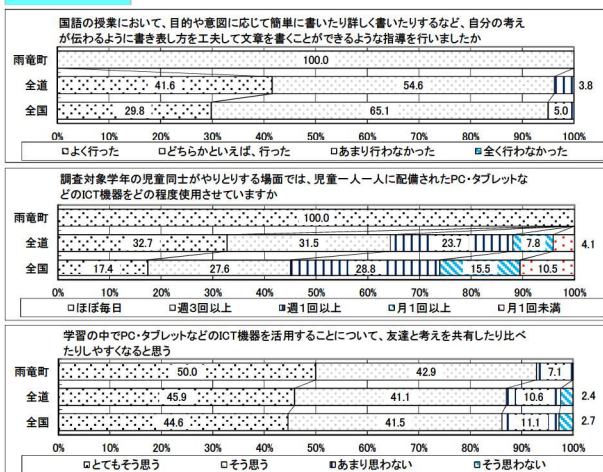


中学校

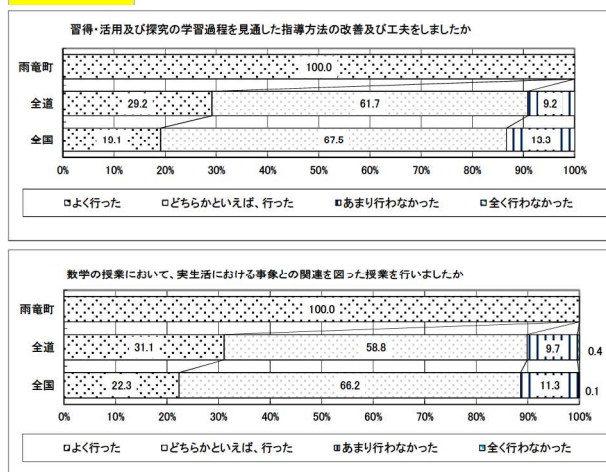


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやりとりする場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「数と式」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【雨竜町の学力向上策】

- ◎ 小中合同教員研修を通じた授業改善の取組と小中相互乗り入れ指導の実施
- ◎ ICT機器の活用による指導方法の工夫改善と効果的な学習活動の推進
- ◎ 小・中学校で連動した家庭学習強調週間の設定による家庭学習の時間と質の向上

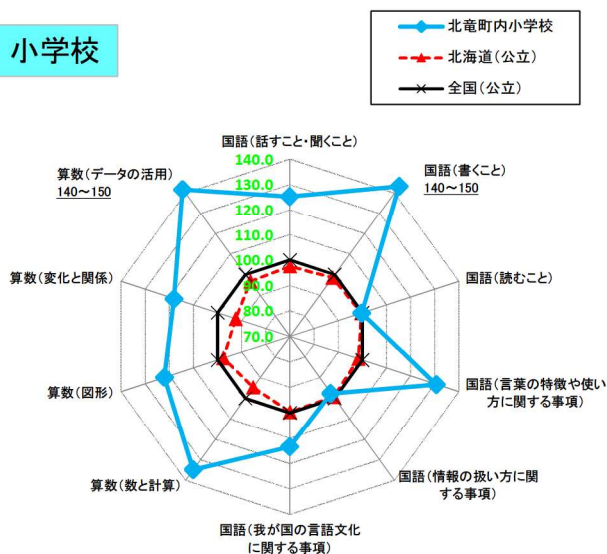
■北竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:7人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

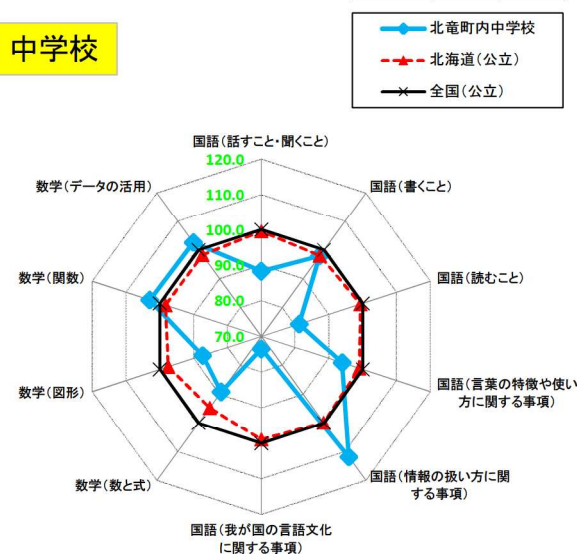
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	83	53
算数・数学	82	51

小学校

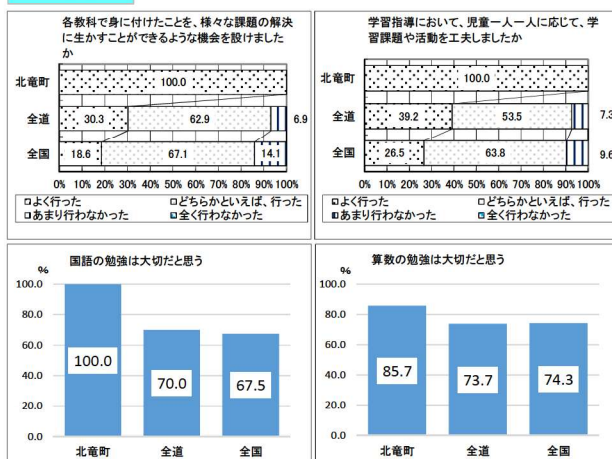


中学校

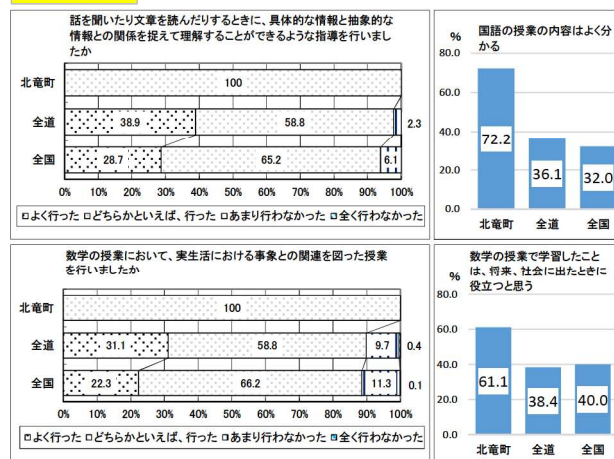


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係をついて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合及び国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うと回答した生徒の割合及び数学の「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北竜町の学力向上策】

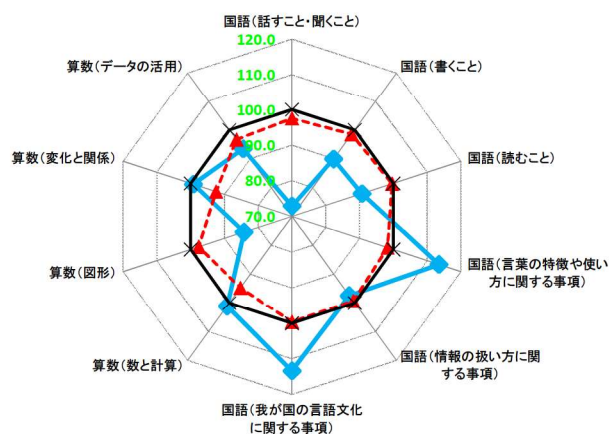
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を活用し、学力や学習状況の評価・分析をもとにした授業改善
- ◎ 町教育振興会での小中連携した研究活動など、教職員の実践指導力を高める取組の充実
- ◎ ICT化に向けての無線LAN環境の整備

■沼田町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

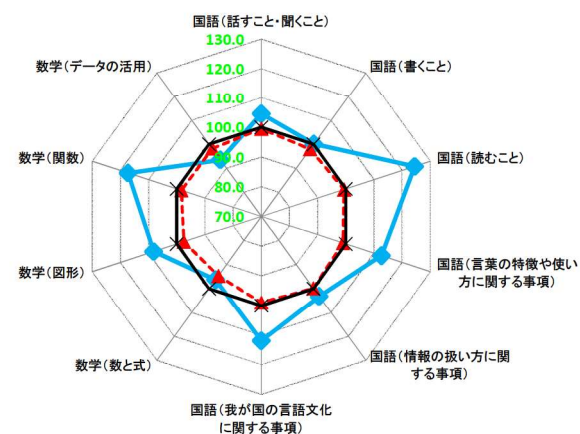
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



中学校

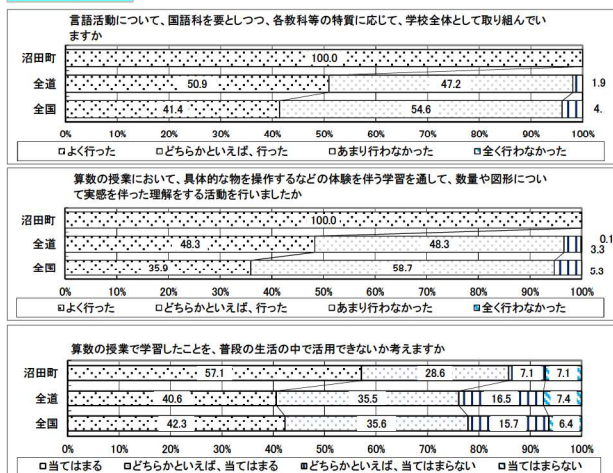


平均正答率	小学校	中学校
国語	65	64
算数・数学	61	54

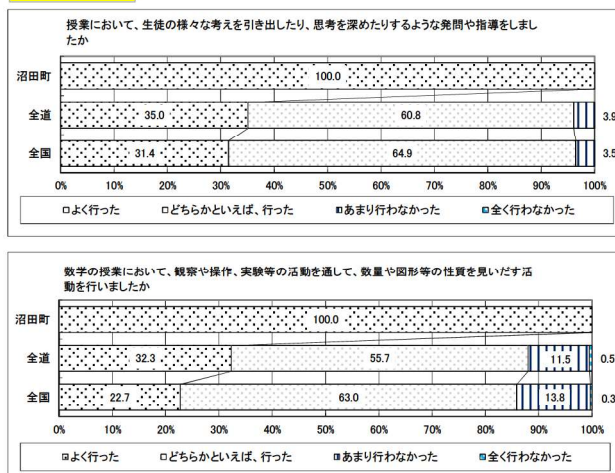
平均正答率	小学校	中学校
国語	65	64
算数・数学	61	54

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「図形」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【沼田町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を見通した教育課程の編成と体制及び教育環境の整備等による小中一貫教育の推進
- ◎ 学園授業スタイル「沼田スタイル」の共有と実践による授業改善
- ◎ ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の推進